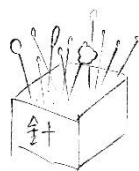


供養

この冬、千葉県を心に鳥インフルエンザが流行り、何万羽と



ガツガツした。あなたが勝手に期待しただけで、

若作 取

言われる鶏が殺処分されました。このような動物のいのちを生業とする場にはよく、供養塔が建てられています。この時の供養は、いのちに対する慰みの意が強く反映されています。人形供養、針供養というのもあります。これは、今まで大切に使用していた物への御礼の意が強く反映されています。

今回ご紹介の「供養」は日本独自に展開したものも多く、多様化しつつあります。今どきはスマホ供養もあるほどです。

では、元々の供養の意味はなんでしょう。古代インド語では尊敬し、もてなしをするという意味のプージャが原語です。これが漢字に意味で変換され、進供養となり、尊敬をする人にお供えをし、養うという意味になりました。

初期の仏教では、在家の方々が、食物や衣服、休む場所や薬品などを供養していたそうです。この供養を受けるのにふさわしい人を阿羅漢といい、聖者

伊賀の牛供養

として尊敬されます。

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

苦楽

♪人生楽ありや
苦もあるさー
もはや30歳以下の入



には伝わりにくい歌となりました。この歌詞が何故水戸黄門のテーマ曲に使われていたのかご存じでしょうか。水戸黄門のモデルとなった徳川光圀が子孫に残した訓示『徳川光圀卿九ヶ条禁書』があります。この中に「苦は楽の種、楽は苦の種と知るべし」とあるのです。苦は楽の種なのだから、苦勞の道を選ぼうという意です。

この言葉をもう少し仏教に寄せて味わうと、苦の種が楽の実となったとしても、油断するとそれはまた苦の種になるということです。

年明けからフジテレビが大変なことになっています。副社長が原因について発言をしていました。八〇年代九〇年代の業界トップの座に君臨していたことからの傲慢さが現在の結果を招いたと。まさに楽が苦の種となったのです。

仏教の楽の極みに極楽があります。阿弥陀仏の極楽浄土の事です。極楽の名の由来は、あらゆる苦がないから極楽というのです。娑婆の苦楽の連鎖を超えた世界です。

